

多自然川づくり取組事例

タイトル : 荒瀬川の改良復旧における工夫について		
水系 / 河川名 : 二級河川日向川水系荒瀬川	河川分類 : 中小河川	
河川の流域面積 : 93.7	整備計画流量 : 600m ³ /s	セグメント : 1
事業 : 災害復旧	事業開始年度 : 令和6年度	
目標設定 : なし	段階 : P(計画時)	
課題・目的(主な) : 流下能力の確保、その他		
工法(主な) : 築堤、掘削(高水敷)、掘削(低水路)、掘削(河床)、護岸整備		
配慮事項(主な) : 多自然川づくりアドバイザー制度の活用		

背景・課題、目標設定

<背景>

山形県では令和6年7月24日から26日にかけて、北部の最上地域と庄内地域を中心に激しい雨が長時間にわたって降り続き、記録的な大雨となった。この際、二級河川日向川水系荒瀬川においても上流部では総雨量が400～500mmという雨量を記録し、その影響により荒瀬川沿川において浸水戸数383戸、浸水面積339haという甚大な被害が発生した。

これを受けて県では、原形復旧ではなく改良復旧による災害復旧を実施するため、河川等災害復旧助成事業への申請を実施した。

<河道計画>

改良復旧事業を実施する際は、多自然川づくりアドバイザー制度に基づきアドバイザーからの助言をいただくこととなっている。本県でも現地調査を実施し、その際にいただいた指摘事項をもとに河道計画検討を行っている。



取組内容・対策例(1/2)

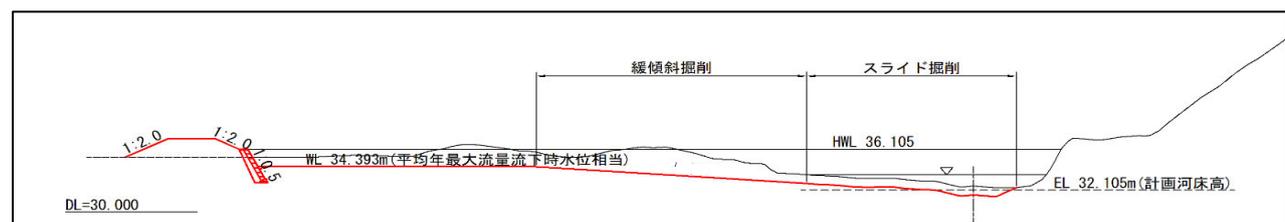
<アドバイザーからの指摘事項>

○土砂再堆積の抑制

内湾部の流速が低下する箇所における、土砂再堆積への対策を検討する。

<検討した対策>

みお筋部となる右岸外湾側はスライド掘削、左岸内湾部は平均年最大流量流下時水位相当まで掘削する計画とした。なお、左岸の水平掘削区間では、土砂再堆積の懸念があるとの指摘を受けて、スライド掘削と水平掘削の区間を緩傾斜で掘削することで緩やかに結びつけ、河道幅程度は平均年流量流下時水位以下となるように工夫した。



取組内容・対策例(2/2)

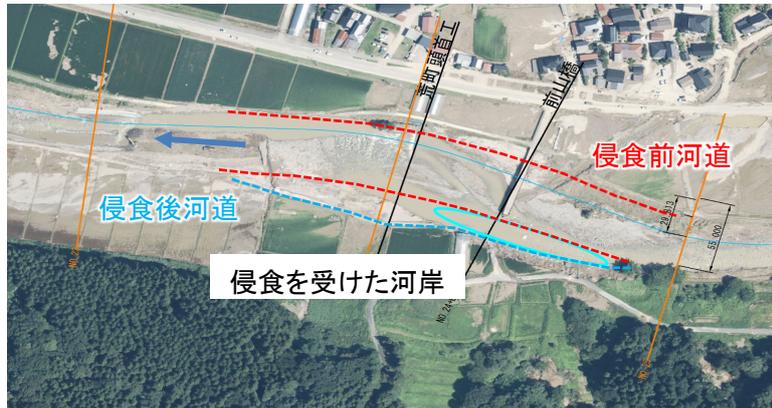
<アドバイザーからの指摘事項>

○侵食を受けた河岸の活用

今回の洪水により侵食を受けた河岸を埋め戻すのではなく、そのまま活用することで、川幅の確保や魚類の生息環境の回復を図る。

<検討した対策>

侵食を受ける前の河道幅まで河岸を埋め戻すのではなく、侵食を受けた河岸なりに河道を計画した。



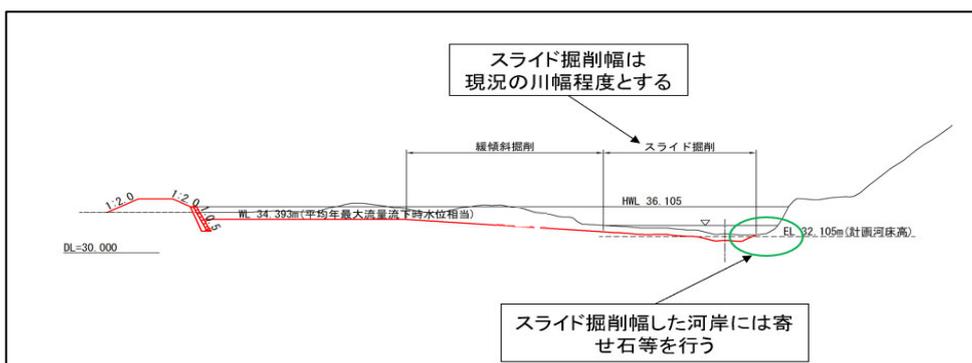
モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<今後の対応方針>

現在は河道計画が完了し、詳細設計を実施している。詳細設計においては、河道掘削を実施する際の多自然への配慮事項としてスライド掘削の実施や、水際部における処理の方法など細かな検討を行い、施工段階における手戻りが生じないようにしたい。

また、荒瀬川には取水施設が多数(10箇所)あり、それらの移設や改築が必要になるという課題がある。

それらの設計やその後の施工においても、荒瀬川全体として縦断的なつながりを意識したかわづくりを進めていきたい。



備考